

踏み出そう新たなステージへみんなの力が新渡戸の未来

4月号

平成31年4月1日号



新渡戸記念 中野総合病院 だより

Nitobe Memorial Nakano General Hospital

東京医療

住所 東京都中野区中央四丁目59番16号

TEL 03-3382-1231 (代) 夜間受付 03-3382-9991

ホームページ <http://www.nakanosogo.or.jp> E-mail soumu@nakanosogo.or.jp

第358号
発行人/理事長 入江 徹也
発行責任者/総務課長 横井 悟

「新渡戸稲造記念センター」設立に向けて

新渡戸稲造記念センター長 樋野 興夫
Hino Okio

すべての始まりは「人材」である。行動への意識の根源と原動力をもち、「はしるべき行程」と「見据える勇気」、そして世界の動向を見極めつつ、高らかに理念を語る「小国の大人物」出でよ！「目的は高い理想に置き、それに到達する道は臨機応変に取るべし」「最も必要なことは、常に志を忘れないよう心にかけて記憶することである」(新渡戸 稲造)の教訓が今に生きる。

- (1) 世界の動向を見極めつつ歴史を通して今を見ていく
- (2) 俯瞰的に理を理解し「理念を持って現実に向かい、現実の中に理念」を問う人材の育成
- (3) 複眼の思考を持ち、視野狭窄にならず、教養を深め、時代を読む「具眼の士」の種蒔き

新渡戸 稲造の精神は、

1. 生活環境や言葉が違って心に通えば友達であり、心の通じ合う人と出会うことが人間の一番の楽しみである
2. 学問より実行
3. 何人にも悪意を抱かず、すべての人に慈愛を持って

である。

事実を直視し、リアリズムに徹することが要求される。リアリズムに徹するとは、「Grasp of thing」である。研ぎ澄まされた感性を持って、「Sense of proportion」の心で、大小を的確に判断して物事に対処することである。思慮深く、一步踏み込む胆力、気概、我慢強く、丁寧に仕上げ、最後には立派に完成する。その動機は「なすべきことをなそうとする愛」である。

勝 海舟の屋敷があった赤坂で、講演『勝海舟の胆力〜がん哲学外来の心得〜』をする機会が与えられた。母を亡くして悩んでいるクララに対して、勝 海舟の奥さん(たみ)の言葉『悲しい時には私達の所へいらっしゃい、一緒に泣きましょう、そしてあなたが仕合せな時には一緒に笑いましょう。さあ勇気をお出しなさい、——これから先の長い年月のことは考えず、今日という日以外には日がないと思ってただ毎日をお過ごしなさい』は、まさに、「訪れる人を温かく迎え入れる」見本である。まさに、「奥ゆかしさは最も無駄のない立居振舞い」(新渡戸 稲造)である。

『いぬのおまわりさん』のように、「困っている人と、一緒に困ってくれる人」の存在こそ「新渡戸稲造記念センター」の真髓ではなからうか！「新渡戸稲造記念センター」設立の歴史的意義は、ここにあろう。





「新渡戸稲造記念センター」設立について

東京医療生活協同組合 常任理事
新渡戸記念中野総合病院 副院長 山根 道雄

平成31(2019)年4月、東京医療生活協同組合に「新渡戸稲造記念センター」が設立されました。「新渡戸稲造記念センター」は、東京医療利用組合(現・東京医療生活協同組合)の初代組合長(理事長)である新渡戸 稲造博士の志を日本の国内外へ広め、実践する拠点となります。新渡戸 稲造博士が志を託された当院は、平成27年10月に新渡戸記念中野総合病院へと名前を変え、私どもの医療活動は「新渡戸稲造博士の精神(誠意と思いやりの心)を基にした医療を誠実に実践し、疾病を抱えた人を真心で支援する」を理念に掲げています。この度「新渡戸稲造記念センター」を設立することは、名称変更後3年半の歳月を経てあたかも理念に魂が宿るごとく、当院の歴史に残る道標として画期的な出来事です。

「新渡戸稲造記念センター」のセンター長には、新渡戸 稲造博士の専門家として本邦の第一人者で、新渡戸博士の志を継承して活躍されている樋野 興夫先生が就任されます。樋野先生は、昨年度より当院倫理委員会外部委員でいらした方で、順天堂大学医学部病理・腫瘍学講座教授を歴任され、癌研究

会癌研究所、米国アインシュタイン医科大学、Fox Chase Cancer Center、順天堂大学で業績を挙げられ、高松宮妃癌研究基金学術賞(2003)、保健文化賞(2016)、長與又郎賞(2018)を受賞されています。がんに関わる人々の悩みを、心を心で読む対話というmethodの中で、先哲の言葉を全身全霊で探し出し、その方の心に響く『言葉の処方箋』として存在をかけてさりげなく贈る。樋野先生が平成20年に創設された「がん哲学外来」は、「がん」という切り口から、人生の苦難に直面した人々に寄り添いながら悩みを解消する場として全国へ広がり、樋野先生の佇まいや風貌も含め、余人をもって代えがたいものとなっています。その功績が認められ、平成30年「朝日がん大賞」も受賞されました。

御著書は『われ21世紀の新渡戸とならん』『いい覚悟で生きる』『がん哲学外来へようこそ』『生きる力を引き出す寄り添い方』など数多ありますが、その業績はもちろん、新渡戸 稲造博士に私淑され、同じ生き方をされている樋野先生はセンター長に最も相応しい方であり、新渡戸 稲造先生がかたわらに来てくださるよう、お迎えしたいと思います。



2019年度のゴールデンウィーク中の診療体制について

2019年度のゴールデンウィークは、長期の休日(4月28日(日)から5月6日(月)【振替休日】までの9日間)になります。

この期間の新渡戸記念中野総合病院の診療体制につきましては、患者様の安全・安心を第一に、以

下のような体制とさせていただきますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

4月30日(火)と5月2日(木)の2日は、休診とせず、通常どおりの診療体制といたします。

※ゴールデンウィーク中の診療体制は下表のようになります。

日	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6	5/7
曜日	土	日	祝	火	祝	木	祝	祝	祝	休	火
診療体制	通常診療	休診	休診	通常診療	休診	通常診療	休診	休診	休診	休診	通常診療

今回は、食事バランスを考えることが難しい中食（テイクアウトなど）と外食について見てみましょう。中食と外食は便利ではありますが、単品メニューや自分の好きな料理ばかり選んでしまうなど、なかなかバランス面まで考えることができません。

中食（テイクアウトなど）では、おにぎりやお弁当は炭水化物とたんぱく質が多く、野菜や果物などが少ない傾向にあります。小さなサラダや果物などを加えましょう。

外食では、麺類や丼物も野菜や果物が少ないため、定食や野菜の入ったメニューを選んだり、サイドメニューでサラダを加えたりすると良いと思います。

私たちにとって食事は、生活の中で楽しみのひとつであり、食事を考え過ぎることがストレスになってしまうのは逆効果ですね。ちょっとした工夫で無理なく続けることが大切だと思います。

中食の場合



外食の場合



農林水産省 ホームページより

4月の小児救急体制



新渡戸記念中野総合病院では、中野区並びに中野区医師会のご協力を得て、小児の初期(1次)救急として「**準夜間小児初期救急医療**」を救急外来で実施しています。

一般診療所の診察時間が終わった後、お子さまが急病の際には、下記の**夜間受付電話**にご連絡のうえ、ご来院ください。15歳以下のお子さまを対象に、小児科医が診療を行います。

***血液検査、点滴等の処置、入院等を必要とする場合は他病院を紹介します。**

4月1日から30日までの準夜間小児初期救急医療体制は下記の通りです。なお、都合により医師の変更もあり得ますので、ご了承ください。ご不明な点は、下記夜間受付にお問い合わせ願います。

- 受付時間 毎日午後**6時30分**～午後**9時45分**
- 診療時間 毎日午後**7時**～午後**10時**
- 夜間受付 ☎**03-3382-9991**

4月準夜間小児初期救急担当医

日	月	火	水	木	金	土
	1 小須賀 基通	2 金 慶彰	3 村杉 寛子	4 奈良 昇乃助	5 清水 泰岳	6 保崎 明
7 右田 王介	8 小須賀 基通	9 高梨 栄	10 高田 功二	11 税所 純也	12 清水 泰岳	13 亀井 宏一
14 清水 泰岳	15 小須賀 基通	16 千葉 智子	17 右近 智雄	18 奈良 昇乃助	19 亀井 宏一	20 右田 王介
21 右田 王介	22 小須賀 基通	23 細谷 直人	24 宇都 ちひろ	25 税所 純也	26 右田 王介	27 清水 泰岳
28 亀井 宏一	29 右田 王介	30 小須賀 基通				

新渡戸記念を支える

職場紹介

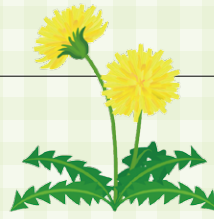
患者様が安心して生活が送れるようにサポートします 6病棟

看護部6病棟 科長 時田 昌枝

6病棟は内科病棟です。主に消化器内科と腎臓内科の患者さんが多く入院しています。

病棟内に処置室を完備し、肝生検・腎生検、血液透析用シャントの血管拡張術やエコーなどの検査処置を病棟内で行っています。病棟看護師が検査処置中もそばにすることで、安心できる環境が整っています。

また、昨年より慢性腎臓病の教育入院も行っています。繰り返し入退院をされる方や、高齢の方の入院が多いため、入院時より退院を意識し、退院後の生活が円滑に送れるように心がけております。



新渡戸 の 言葉

今月は昨年4月と同じ「新渡戸の言葉」を掲載させていただきます。当院創立記念日は5月27日ですが、前年の昭和6年6月に神田で創立発起人会があり、座長の新渡戸 稲造博士の挨拶の口述筆記が残されています。「……私はこれまでまことに沢山の会に関係しておりますが、未だ会長の席に就いたことは一度もないのでありまして、この度、私が会長になったことは全く例外であります……私どもは金力が無くとも、正しい動機によってなされたものは、斯様に立派に成功するというを天下に示さねばなりません」(『東京医療生協五十年史』P19-20、昭和57年刊)とその挨拶で語りました。初代組合長(理事長)であった新渡戸 稲造先生が88年前に当院へ託された想い・「志」を心に刻み、日々研鑽することが「新渡戸記念」職員の使命と考えています。

昨年度より倫理委員会外部委員や倫理講演会講師を務められた樋野 興夫先生が、平成31年春新設

新渡戸 稲造

最も必要なことは
常に志を
忘れないよう
心にかけて
記憶することである。

の「新渡戸稲造記念センター長」に就任されました。樋野先生は半世紀近く新渡戸 稲造博士に私淑され、その志を継承し、それを数多の著作や「がん哲学外来」で実践しておられる方です。その後ろ姿に私は本物の新渡戸 稲造先生を見る想いがいたします。弊院の歴史的快挙となる「新渡戸稲造記念センター長」として樋野先生を職員一同、心より歓迎いたします。

新渡戸記念中野総合病院副院長 山根 道雄